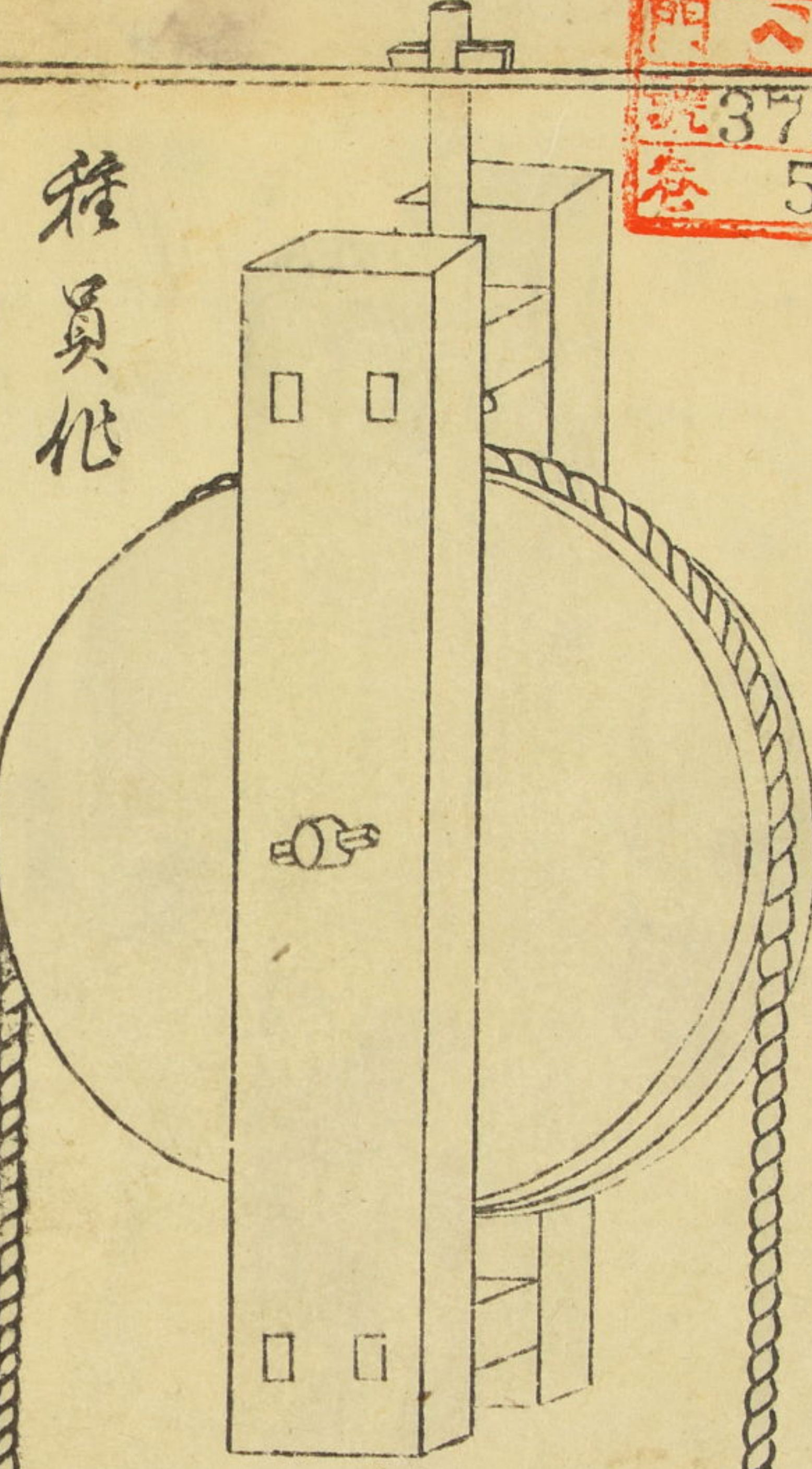


門 へ13
3750
巻 5

重編妙々車 二篇上集



紅英堂

菱元

鳥岡

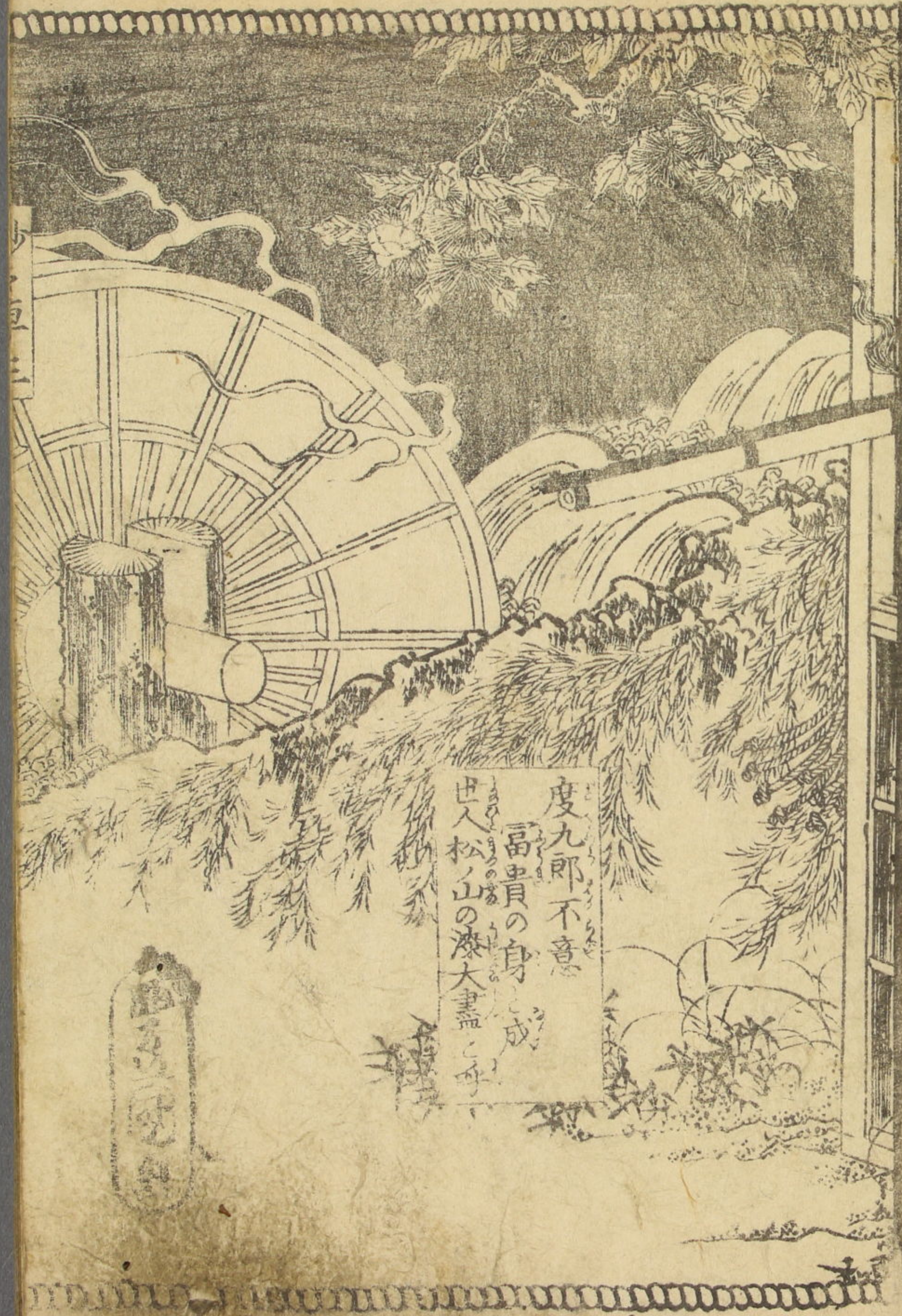
種員化

國貞画

萬一碎論會の催ありて第一番小言發した説あり神佛と學く崇敬慈悲
と專行ふ人惡人の為業小害せらるる其善人の子の孝心深く百折千魔の
艱苦と凌ぎ竟小親の仇と討則天道の恵ありといふ突然なるべし造渠
再考されば天彼孝子の清心と愛憐教讐の素懐と遂に本事の
有る難義あり先小兒惡の性質と正直生えさせ善人を殺すあり後孝子
又佛家の廣大中折ありて過去の宿業なりと答ふ是難問解の最なり
道歌の昔趣定たる哉と無益とをいひつゝ此三編小霜七と度九郎と般平
鉄車山の熟視るる何故救るべしと看官の難と消くをわたりて
かゝる愚文と論ふあり

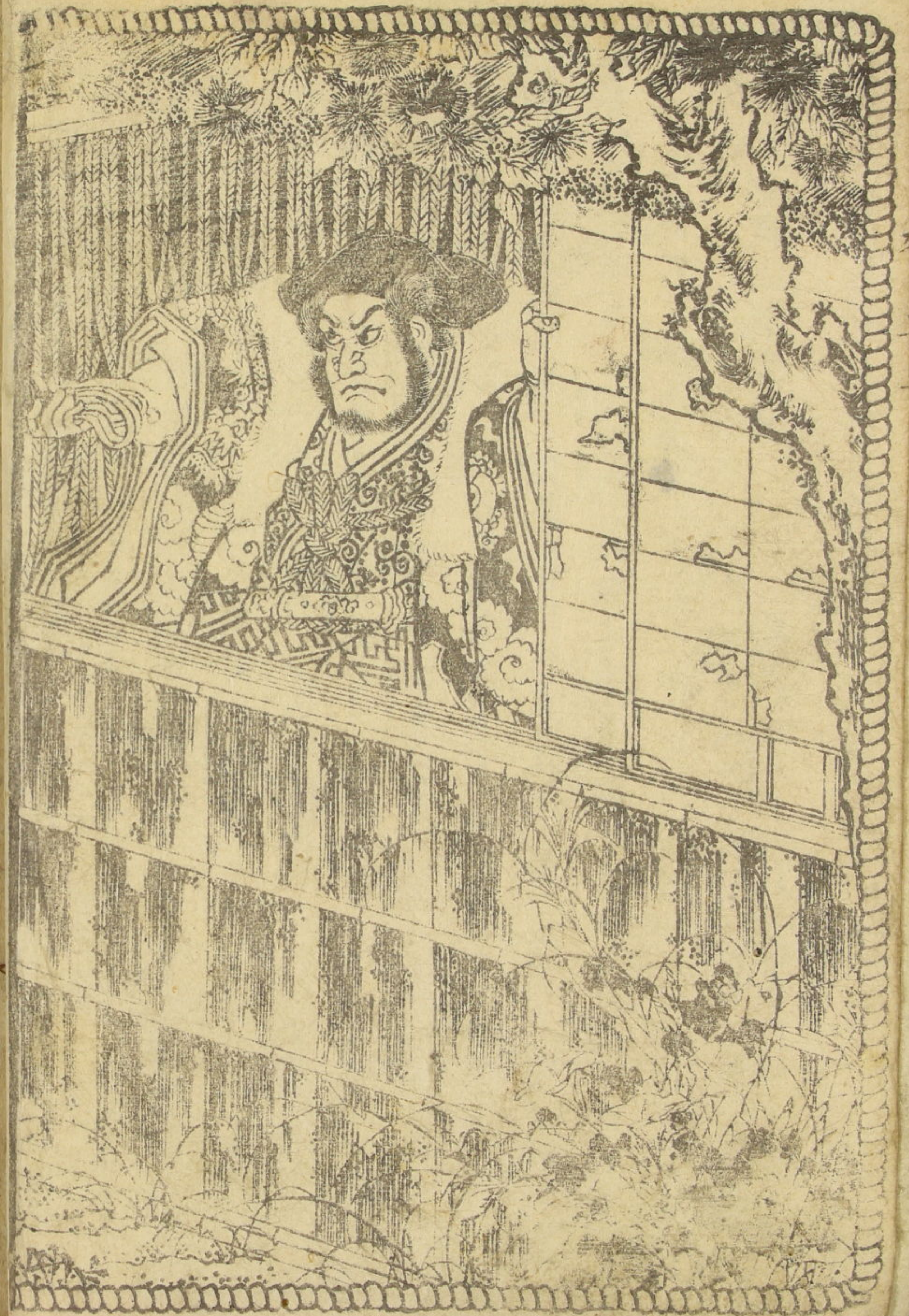
三 安政丙辰辰月

柳下亭種員



度九郎不意
富貴の身成
世人松山の邊大盡と云

松山





度九郎の子
揮名して
魔度六と称



悪漢
女谷の
魔物

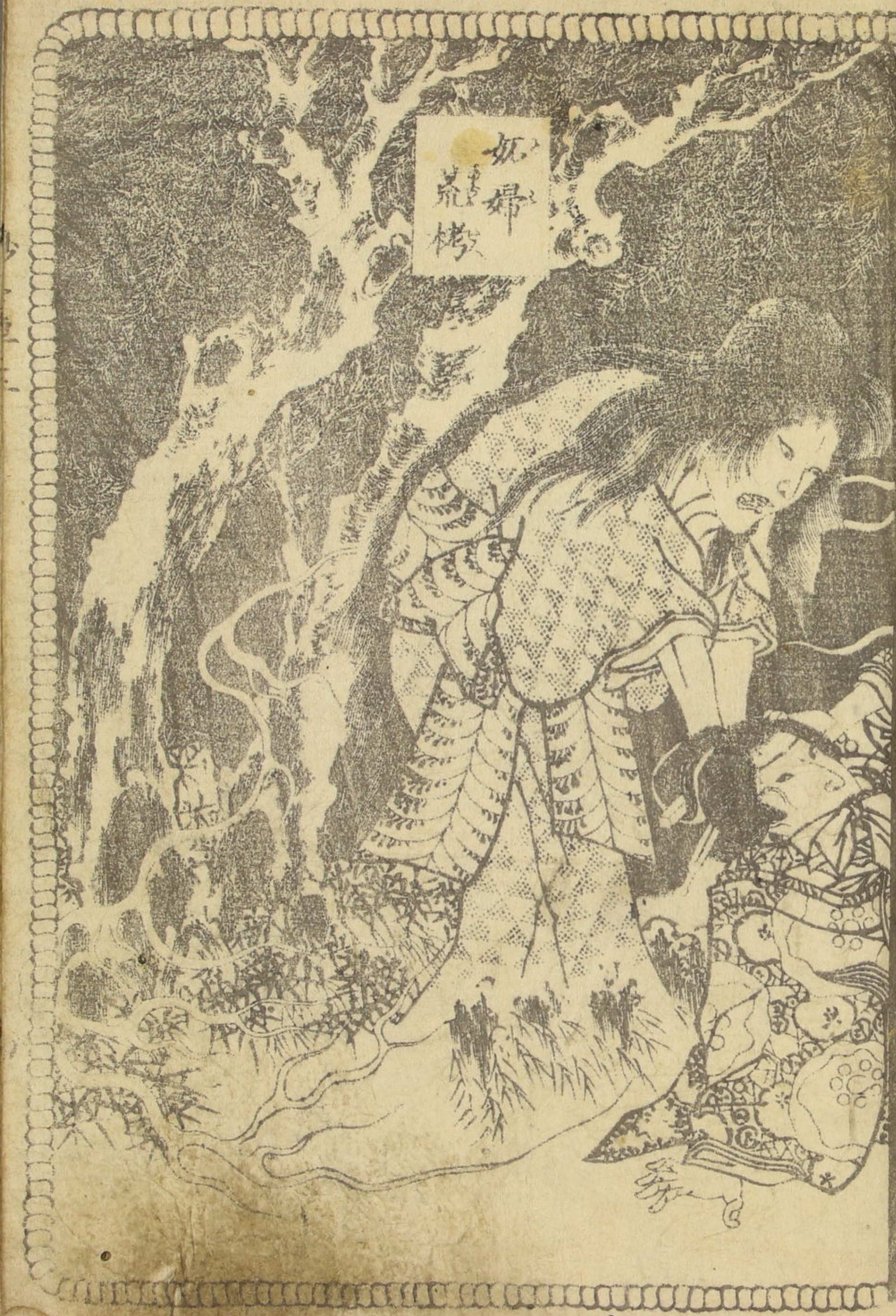


悪漢
折江の度七



悪漢





如婦
荒櫛



輕片渡の
俵備女
謝心
夏九郎の
女

如婦



如月三
 山ノ車三

山ノ車三
 大湯村の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉
 湯泉の湯泉









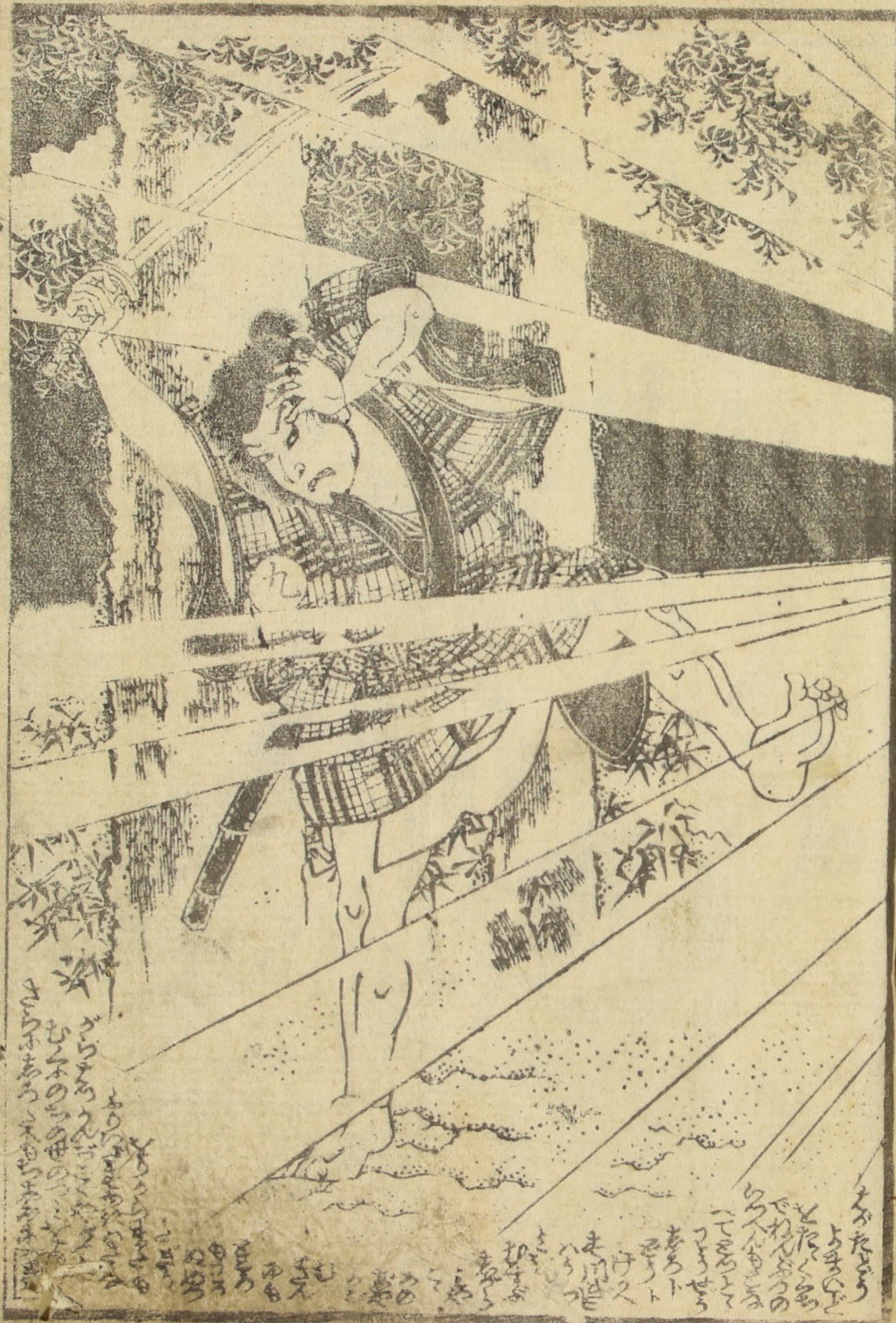
うかからしむるのれんを
くのもつたあつた
たののつたあつた
てあつたあつた
よのつたあつた
のつたあつた
のつたあつた

のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた



うかからしむるのれんを
くのもつたあつた
たののつたあつた
てあつたあつた
よのつたあつた
のつたあつた
のつたあつた

うかからしむるのれんを
くのもつたあつた
たののつたあつた
てあつたあつた
よのつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた
のつたあつた



九
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ

おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ



母
三
九

おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ
おのゝけのうらみ
はつきのせがれ
あつきのせがれ

山崎闇斎
此は山崎闇斎の
筆による
浮世草子
の一場面
を描いた
挿絵である
と見られる
。



山崎闇斎
此は山崎闇斎の
筆による
浮世草子
の一場面
を描いた
挿絵である
と見られる
。



山崎闇斎

種員作國貞画



此の女は、種員作國貞の画である。その衣裳は、麻衣（あしぎぬ）と稱する。また、所持の扇は、軽井澤の徳徳社の産物である。此の画は、中仙傳馬所丁自東より、馬中安子により、向まのちぎりの、あまの。

種員作國貞の画。此の女は、種員作國貞の画である。その衣裳は、麻衣（あしぎぬ）と稱する。また、所持の扇は、軽井澤の徳徳社の産物である。此の画は、中仙傳馬所丁自東より、馬中安子により、向まのちぎりの、あまの。

軽井澤の徳徳社の産物。此の扇は、軽井澤の徳徳社の産物である。また、所持の扇は、軽井澤の徳徳社の産物である。此の画は、中仙傳馬所丁自東より、馬中安子により、向まのちぎりの、あまの。

鼠祠通夜譚

四編より
八編から
出板仕り

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

實母散

本家
私方実母さんの愛の中を、あてはす町一丁目西が、
しと年来賣弘ノ来り、は正店まで各身は、
向まのちぎりの、あまの。
中橋南傳馬所丁自東より、葉堂孝輔製

厚化粧萬年嶋田

初篇より
追々出板
辰春物とん

為永春水作
梅蝶樓國貞画

この世の普く沙汰せらるる
この世の普く沙汰せらるる
竇縁芦田の家小仇做んととて爰小忠臣孝女ありて渠が母手小坐
あどせらるる衣まをりて化粧の形る宜く理のほろり草紙紙り

この世の普く沙汰せらるる
この世の普く沙汰せらるる
竇縁芦田の家小仇做んととて爰小忠臣孝女ありて渠が母手小坐
あどせらるる衣まをりて化粧の形る宜く理のほろり草紙紙り

この世の普く沙汰せらるる
この世の普く沙汰せらるる
竇縁芦田の家小仇做んととて爰小忠臣孝女ありて渠が母手小坐
あどせらるる衣まをりて化粧の形る宜く理のほろり草紙紙り

